平成29年 4月市長定例記者会見

日 時：平成29年4月5日（水）午後2時～2時30分

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞、朝日新聞、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、射水ケーブルネットワーク、ホットラインKOSUGI、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、建築住宅課長、子育て支援課長、政策推進課長、未来創造課長（司会）

質疑応答の概要

Q1. 斎場について、市は地元自治会から誘致を受けた立場だと思うが、自治会内では反対の方たちが依然として同意していない状況である。今後の見通しや市のスタンスを教えてください。

A1. 現斎場の老朽化や今後の斎場の稼働状況を見極め、現在の施設及び場所での整備が難しいため、新たな場所での整備に向け、候補地の調査などを行ってきた。その中で、沖塚原自治会から斎場について誘致の話をいただいた。これに当たり、自治会内で十分に住民の皆さんの意見をまとめてもらうようお願いをしたところ、3分の2以上の方々の賛成があったということで話し合いを進めてきた。これまで基本計画の策定に向けて専門家の話を聞き、また、地元の方々に対しても市の考え方を説明し、先進地にも視察へ行っていただくなど、理解を深めていただけるよう取り組みを進めてきた。しかし、いわゆる迷惑施設ということもあり、地元にはご理解いただけていない方、反対の立場で意見を発信している方もおられる。市としては反対の方にもご理解いただけるよう丁寧に説明し、どのような面において心配や不安をお持ちなのかといった部分も聞かせていただきながら、心配の解消に向け、今後も丁寧に説明させていただき、ご理解いただけるように進めていきたい。

今後の見通しについては、基本方針をまとめ、また、予算上も設計などへの着手に向けた予算を計上しているところである。ご理解をいただけるようしっかり努力をし、重要な施設であるので、整備に向けて前に進めて行ければと考えている。（市長）

Q 2 . 氷見市長選が先日行われた。呉西圏域連携を進める中で、今回の結果をどのように受け止めているか。また、今後の射水市との連携、呉西 6 市全体での連携について考えを聞かせてほしい。

A 2 . 林さんのお話の中でも、呉西 6 市で連携をしながら氷見のよりよいまちづくりに取り組みたいという趣旨の話もあった。連携という事については、今後ともしっかり話をしながら連携を続け、深めて行ければと考えている。多くの氷見市民の期待に応えられることを期待したい。(市長)

Q 3 . 次期市長選に向けて、いつごろ意思を表明するのか。

A 3 . まずは、いただいた任期をしっかり務めさせていただきたい。斎場など、まだまだ道半ばのものもあり、途中段階の重要案件もある。これらについて、よりよい成果を挙げられるよう、与えられた任期中で全力を尽くす。時期については、後援会の方などと話をしながら 6 月ごろには判断をしたいと思う。(市長)

Q 4 . 住宅支援事業について、他地域からの転入者はどのくらいを目標にしているか。また、このような 3 世代同居住宅支援事業等は県内他自治体でも行われているのか。この事業に関する予算はどのくらい組まれているのか。

A 4 . 射水市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略で取組を進める中で、P D C A サイクルを回しながら K P I を設定して進めているところである。そうした大きな目標はあるが、この事業を進める上での細かな目標については、まずは、この取組を進めて社会減に歯止めをかけたいと考えているところである。成果としては難しい所もあり、平成 2 7 年は 4 7 名の転入超過(社会増)となっていたが、平成 2 8 年については 6 3 名の転出超過(社会減)になっている。しかし、平成 2 2 年は 1 5 5 名の転出超過であったため、取組を進める中で着実に社会減の減少幅は狭まってきている。2 7 年度の転入超過の実績もあるので、取組の充実を図りながら、社会減に歯止めをかけていきたい。

3 世代同居の取組を新たに始めるが、他の自治体でも支援を行っているところは複数ある。ただし、孫ターンは射水市の特徴ではないかと考えている。

予算については、状況を見て追加が必要ならば対処をする。まずは事業

のPRに努め、成果を挙げていきたい。(市長)